

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

総合開館 20 周年記念

「東京・TOKYO 日本の新進作家 vol.13」展

Tokyo Tokyo and TOKYO: Contemporary Japanese Photography vol.13

2016 年 11 月 22 日（火）～2017 年 1 月 29 日（日）



中藤毅彦
< STREET RAMBLER >
より 2015 年 インクジェ
ット・プリント

東京都写真美術館は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の場となるよう、さまざまな事業を展開しています。その中核となるのが、毎年異なるテーマを決めて開催している「日本の新進作家」展です。シリーズ第 13 回目となる本展は、東京というメガ・シティに取り組んでいる現代作家をとりあげていきます。

東京は人口が 1000 万人を超え、世界有数の都市として知られています。しかしそのイメージは、メディアによって画一化されている側面も否めません。19 世紀に写真技術が輸入されてから、多くの写真師、写真家によって記録、表現されてきた東京。実際には人々が生活し、変化し続ける多様な場でもある東京を、現在の写真家たちはいかに描くのか、本展は 6 人の新進作家による「今」の東京を提示いたします。

出品作家

(出品点数 204 点。出品作家ステイトメントの全文は展覧会図録をご覧ください。)

小島康敬 (KOJIMA Yasutaka)

1977 年東京生まれ。国学院大学文学部卒業後、2006 年に渡米。International Center of Photography, General Studies Program 卒業。在学中、ICP Director's Scholarship Award 受賞。文化庁・新進芸術家海外研修制度、2011 年度研修員。2012 年、Photo Espana “Descubrimiento photoespaña” 選出アーティスト。2015 年 4 月よりドイツのベルリンのクンストラーハウス・ベタニエン・レジデンシー・プログラムに参加。



出品予定作品

《Tokyo》 14 点 2013 年

この作品は未来の人がこの時代の記憶をどのように語るのかに想いを馳せながら、けっして均質でない無機質でどこか嘘っぽくもある、東京の都市の表層を撮影したものだ。

(小島康敬、展覧会ステイトメントより)

《Tokyo》

2013 年 インクジェット・プリント

佐藤信太郎 (SATO Shintaro)

1969 年東京生まれ。東京総合写真専門学校、早稲田大学第一文学部卒業。共同通信社入社。2002 年よりフリー。2009 年千葉市芸術文化新人賞、日本写真協会賞新人賞受賞。2012 年林忠彦賞受賞。



出品予定作品

シリーズ <東京 | 天空樹>より

11 点 2009-2016 年

「東京 | 天空樹」は、都市を見るための装置として東京スカイツリーを位置付け、東京を記録したシリーズだ。スカイツリーを介して見えてくる東京特有の雰囲気や、人間の営みを捉えている。

(佐藤信太郎、展覧会ステイトメントより)

《2016 年 5 月 15 日 台東区浅草》

2016 年 インクジェット・プリント

田代一倫 (TASHIRO Kazutomo)

1980年福岡県生まれ。九州産業大学大学院修了。2006年三木淳賞奨励賞を受賞。2006年より、福岡市にて<アジア フォトグラファーズ ギャラリー>の設立に参加。2010年に東京都新宿区の<photographers' gallery>に活動の拠点を移し、作品を制作、発表。2013年さがみはら写真新人奨励賞受賞。



«2014年5月12日» 千代田区
2014年 発色現像方式印画

出品予定作品

42点 2014-15年

バイトの休憩中に、同僚を撮影し始めた。(中略) 警備員の私が見た写真家の私は、間違いなく不審だろうと想像する。私は、撮影を了承してくれた相手に、生活の中断を強いる。そして彼らは、私のことを「写真を撮る人」として認識してくれる。見るというより、見返されることを喜びとしていたのではないかとさえ思う。それを繰り返すと、写真を撮るためだけの目的で東京を歩けるようになった。

(田代一倫、展覧会ステイトメントより)

中藤毅彦 (NAKAFUJI Takehiko)

1970年東京生まれ。早稲田大学第一文学部中退、東京ビジュアルアーツ写真学科卒業。2000年より5年間東京ビジュアルアーツ非常勤講師。作家活動とともに、四谷三丁目にてギャラリー・ニエプスを運営。2013年東川賞特別作家賞受賞。2015年林忠彦賞受賞。



<STREET RAMBLER>より
2015年 インクジェット・プリント

出品予定作品

シリーズ <STREET RAMBLER>より

53点 2011年

今回の展示にあたり、改めて全てを見直してみたのだが、無意識に自分が写していたのは、再開された無機的な光景ではなく、街の記憶が澱のように染み付いた場所ばかりだった。そこには闇と光が交差し、当て所無い人々が彷徨い歩く、混沌として静かに沈んで行く様な東京の姿があった。おそらく、2011年の大震災という未曾有の出来事に大きな衝撃を受け、人生観や死生観の幾ばくかが変わった事が写真にも作用しているのだと思う。

(中藤毅彦、展覧会ステイトメントより)

野村恵子 (NOMURA Keiko)

兵庫県生まれ。同志社女子大学英文学部中退、ビジュアルアーツ専門学校大阪を卒業後、渡米。1997年コニカプラザ「新しい写真家登場」特別賞受賞。1999年日本写真協会新人賞受賞。2000年東川賞新人作家賞受賞。



<A Day in The Life>より
2012年 発色現像方式印画

出品予定作品
シリーズ <A Day in The Life>より
35点 2001-2016年

秋がきて、冬を越え、春になれば、また桜は見事に咲き誇り、季節は繰り返し繰り返し、巡りくる。変わらないであろう循環がある。此処にあるその光りに、幸せに、痛みに、傍にいる身体に、今の生を感じてみる。心に映った光景を記憶していたい、撮りたいと衝動することは、ある本能に添う行為でしかない。

(野村恵子、展覧会ステイトメントより)

元田敬三 (MOTODA Keizo)

1971年大阪生まれ。桃山学院大学経済学部卒業後、ビジュアルアーツ専門学校大阪卒業。同専門学校在学中、1996年写真[人間の街]プロジェクト(ガーディアン・ガーデン主催)入選、準太陽賞受賞。1997年より東京ビジュアルアーツ専門学校にて非常勤講師。



<OPEN CITY>より
2013年 ゼラチン・シルバー・プリント

出品予定作品
シリーズ <OPEN CITY>より
23点 2009-2016年
シリーズ <ツッパルな>より
26点 2011-2016年

写真家として、競争という写真界の空気の中で、経済性は保護されず欠如するという状況の中で、だからこそいくつになっても変わることなく慎ましくも豊かに写真に向かえたことへの感謝。ツッパルなと言いつつも、東京へ写真へ向かおうと試みた作品である。

(元田敬三、展覧会ステイトメントより)

東京都写真美術館では、「東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する」という収集方針を掲げており、当館収蔵作品による「東京」をテーマとしたコレクション展も同時開催いたします。

関連イベント

作家とゲストによる対談

2016年11月26日(土) 元田敬三×石川竜一(写真家)

2016年11月27日(日) 小島康敬×小林美香(東京国立近代美術館客員研究員)

2016年12月4日(日) 田代一倫×倉石信乃(明治大学教授)

2016年12月10日(土) 中藤毅彦×田原桂一(写真家)

2016年12月11日(土) 佐藤信太郎×大西みつぐ(写真家)

2016年12月23日(金・祝) 野村恵子×石川直樹(写真家)

各回 14:00-15:30 定員 各回50名

会場 東京都写真美術館2階ロビー ※当日午前10時より1階総合受付にて整理券を配布します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日(11月25日、12月9日、12月23日、2017年1月13日、1月27日)14:00より、担当学芸員による展示解説を行います。

展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、2階展示室入口にお集まりください。

展覧会図録

『東京・TOKYO 日本の新進作家 vol.13』

主な出品作品図版、作家略歴、作家ステイトメント、展覧会担当学芸員のテキスト、出品リストを掲載(和英バイリンガル)

編集 東京都写真美術館

発行 Case Publishing 176頁 2,808円(税込)

開催概要

主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

助成 芸術文化振興基金

協賛 凸版印刷株式会社／東京都写真美術館支援会員

協力 株式会社カシマ／金丸真株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／
有限会社東京カラー工芸社／株式会社西村カメラ

会期 平成28(2016)年11月22日(火)～平成29(2017)年1月29日(日)

会場 東京都写真美術館 2階展示室 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 URL <http://topmuseum.jp>

開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで)

※ただし2017年1月2日[月・振休]・3日[火]は11:00～18:00 入館は閉館30分前まで

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館、ただし1月3日は開館)、
年末年始2016年12月29日(木)～2017年1月1日(日・祝)

観覧料 一般700(560)円／学生600(480)円／中高生・65歳以上500(400)円

※()は20名以上の団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。
掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
図版のトリミングはできません。

掲載点数が1点の場合は、展覧会メインイメージとして、本リリース1ページ目にあります
中藤毅彦 <STREET RAMBLER>より 2015年 インクジェット・プリント
のご掲載を薦めさせていただきます。

このリリースのお問い合わせ先

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館
1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

展覧会担当 藤村里美 s.fujimura@topmusum.jp 鈴木佳子 y.suzuki@topmusum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 press-info@topmuseum.jp